



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA・DWANGO
(株式会社KADOKAWA分)
コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 辰男
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松原 真樹 TEL 03-3549-6370
半期報告書提出予定日 平成26年12月17日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	70,471	△2.4	△933	—	0	△100.0	△835	—
26年3月期第2四半期	72,203	△9.9	2,816	△25.7	3,501	△19.6	3,787	136.5

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △3,991百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 6,851百万円 (155.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△28.39	—
26年3月期第2四半期	143.25	125.96

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	148,222	106,434	71.0
26年3月期	156,105	110,931	70.7

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 105,311百万円 26年3月期 110,352百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	60.00	60.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—

(注) 26年3月期期末配当金の内訳 普通配当 35円00銭 記念配当 25円00銭

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	29,565,904株	26年3月期	29,258,393株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	0株	26年3月期	4,497株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	29,446,347株	26年3月期2Q	26,442,591株

※ 中間監査手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、中間連結財務諸表に対する中間監査手続が実施中でありませぬ。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

株式会社KADOKAWAは、株式会社ドワンゴと平成26年10月1日をもちまして共同株式移転の方法により共同持株会社である株式会社KADOKAWA・DWANGOを設立しております。

株式会社KADOKAWA・DWANGOの連結業績予想と配当予想につきましては、平成26年11月13日公表の「平成27年3月期の業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書.....	6
四半期連結包括利益計算書.....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(以下、「当期」という。)におけるわが国経済は、消費税増税後、個人消費にも弱い動きが見られるなど、景気は弱含みで推移しました。

当社グループ(㈱KADOKAWA及びその連結子会社、以下同様)の事業領域においては、出版市場や映像市場で前年実績を下回る傾向が続いています。一方、スマートフォンやタブレット端末の普及や高速データ通信への移行が進み、デジタル化された多種多様なコンテンツをいつでもどこでも手軽に楽しめる環境が整っていくなか、ユーザーのライフスタイルに大きな変化が起きています。

このようにコンテンツホルダーにとって新たなビジネスチャンスが生まれている環境下、当社グループは出版事業、映像事業を核にしたメガコンテンツ・パブリッシャーの地歩を固めながら、さらに、新たなプラットフォーム事業に挑戦し事業構造の改革を進めています。今後の飛躍的な成長に向けて、新規事業への積極的な投資や複数の事業領域を横断するビジネスを推進するなど、総合的な施策を実行し、次世代型の「コンテンツ産業のリーディングカンパニー」を目指しています。

書籍関連では、メディアミックス作品の展開や新規ジャンルへの進出を積極的に進めていますが、ここ数年好調を持続している文庫やコミックスの売上高の減少や返品率の上昇により、収益性が低下しました。一方、当社コミック作品の底上げや次期主力作品の育成を進めるため、平成26年3月開始のWebコミックサービス「ComicWalker」を立ち上げ、デジタル時代に対応したコミックビジネスの確立を目指します。

雑誌・広告関連では、Web広告収入が増加したものの、雑誌販売額や雑誌広告収入の減少が続いており、固定費の削減や不採算部門の整理を進めています。また、急速に普及しているスマートフォン向けのサービスやネット広告ビジネスを拡大させ、事業構造の転換に向けた展開を加速させています。平成26年6月より、㈱NTTドコモが開始した新たな雑誌読み放題サービス「dマガジン」に、新開発の雑誌専用ビューアーを提供し、当社発行の主要雑誌を配信することとなりました。

映像関連では、配給作品、パッケージ作品ともに点数減や小規模作品の比率が高かったこともあり、売上高が減少しましたが、映像配信や海外販売が好調で全体として売上高を伸ばしました。引き続き、出版事業から生み出される豊富なグループIPの映像化、実写化及びアニメ作品の制作、配給に注力し、安定的な事業運営に努めています。

ネット・デジタル関連では、電子書籍において積極的な作品投入やキャンペーンの実施もあり「BOOK☆WALKER」や外部の電子書籍ストアでの売上が高い伸び率を示しており、引き続き成長戦略の柱として注力いたします。また、ゲーム事業では、平成26年5月に、家庭用ゲーム機向けハイエンドゲームの開発及び販売を主力事業とする㈱フロム・ソフトウェアの株式を取得し子会社化しました。㈱フロム・ソフトウェアと㈱角川ゲームスの両社は、企画、開発、販売における資源を相互活用し、成長が見込まれる海外市場や新しいゲームプラットフォームを見据えた事業展開等を推進します。

海外関連では、前連結会計年度に、香港の連結子会社を売却したことにより売上高が減少しましたが、台湾で堅調に推移している出版事業に加え、アニメ版權ビジネスやグッズ販売が伸張しました。

この結果、当期の連結業績は、売上高704億71百万円(前年同期比2.4%減)、営業損失9億33百万円(前年同期は、営業利益28億16百万円)、経常利益0百万円(前年同期比100.0%減)、四半期純損失8億35百万円(前年同期は、四半期純利益37億87百万円)となりました。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しています。

各ジャンルにおける売上貢献作品は、次のとおりであります。

(単行本)

「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」坪田信貴

(アスキー・メディアワークス)

「角川アニメ絵本 アナと雪の女王」、「艦隊これくしょん 艦これ 艦娘型録」、「破門」黒川博行

(角川書店)

(文庫)

「お文の影」宮部みゆき、「心霊探偵八雲」神永学、「万能鑑定士Qの謎解き」松岡圭祐(角川書店)

(ライトノベル)

「ソードアート・オンライン」川原礫、「魔法科高校の劣等生」佐島勤(アスキー・メディアワークス)

「僕は友達が少ない」平坂読、「ノーゲーム・ノーライフ」榎宮祐(メディアファクトリー)

(コミックス)

「とある科学の超電磁砲」鎌池和馬/冬川基/はいむらきよたか(アスキー・メディアワークス)

「世界一初恋～小野寺律の場合～」中村 春菊(角川書店)

「となりの関くん」森繁拓真、「カゲロウデイズ」じん（自然の敵P）（メディアファクトリー）

（DVD、Blu-ray）

「ハンガー・ゲーム2」「デート・ア・ライブII」（角川書店）

「妖怪ウォッチ」「ノーゲーム・ノーライフ」（メディアファクトリー）

（ゲーム）

PS Vita「ラブライブ! School idol paradise」（アスキー・メディアワークス）

PS Vita「英雄伝説 碧の軌跡 Evolution」（キャラアニ）

ブラウザゲーム「艦隊これくしょん-艦これ-」（角川ゲームス）

※ 作品名末のカッコ内の表記は、当社が平成25年10月1日に吸収合併した事業会社の社名を引き続きブランドカンパニー名として対外的に使用している表記を含みます。

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前期末に比べて78億82百万円減少し、1,482億22百万円となりました。株フロム・ソフトウェアの買収によりおのれが増加した一方、同社の買収、有形固定資産の取得及び配当金の支払等により現金及び預金が、保有株式の時価総額減少等により投資有価証券がそれぞれ減少し、さらに受取手形及び売掛金も減少しました。

負債は、前期末に比べて33億85百万円減少し、417億88百万円となりました。保有株式の時価総額減少等により繰延税金負債が減少し、支払手形及び買掛金も減少しました。

純資産は、前期末に比べて44億97百万円減少し、1,064億34百万円となりました。新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ増加した一方、配当金の支払等により利益剰余金が減少し、さらに保有株式の時価総額減少によりその他有価証券評価差額金も減少しました。

自己資本比率は、期首に比べて0.4ポイント上がり、71.0%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失3億31百万円の計上、売上債権の減少等により、8億77百万円の収入（前期は77億8百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還、保険積立金の解約等の収入があったものの、有形固定資産、無形固定資産及び子会社株式の取得等による支出が上回り、55億53百万円の支出（前期は23億45百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済、配当金の支払等により、21億27百万円の支出（前期は18億55百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額を含めて65億66百万円の支出となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、242億42百万円となりました。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従い、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

なお、この変更に伴う四半期連結財務諸表に与える影響は、軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,644	26,401
受取手形及び売掛金	36,482	32,727
有価証券	709	—
たな卸資産	14,641	14,923
繰延税金資産	4,907	4,822
その他	1,724	2,218
貸倒引当金	△21	△19
流動資産合計	91,088	81,074
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,784	5,966
工具、器具及び備品(純額)	1,315	1,307
土地	10,255	10,255
建設仮勘定	1,377	3,553
その他(純額)	361	322
有形固定資産合計	19,095	21,404
無形固定資産		
のれん	392	3,667
その他	2,931	3,620
無形固定資産合計	3,324	7,287
投資その他の資産		
投資有価証券	33,282	29,091
繰延税金資産	159	543
その他	9,431	9,013
貸倒引当金	△277	△192
投資その他の資産合計	42,596	38,455
固定資産合計	65,016	67,148
資産合計	156,105	148,222

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,229	19,005
短期借入金	—	30
1年内償還予定の新株予約権付社債	2,580	1,800
未払法人税等	528	469
賞与引当金	1,567	1,761
返品調整引当金	3,694	3,193
その他	7,380	7,032
流動負債合計	35,980	33,292
固定負債		
長期借入金	260	230
繰延税金負債	5,260	3,862
退職給付に係る負債	3,009	3,235
その他	663	1,167
固定負債合計	9,193	8,495
負債合計	45,173	41,788
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,825	29,210
資本剰余金	29,870	30,255
利益剰余金	40,364	37,762
自己株式	△12	—
株主資本合計	99,047	97,228
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,812	8,975
土地再評価差額金	△232	△232
為替換算調整勘定	△156	△543
退職給付に係る調整累計額	△118	△116
その他の包括利益累計額合計	11,304	8,082
少数株主持分	579	1,123
純資産合計	110,931	106,434
負債純資産合計	156,105	148,222

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	72,203	70,471
売上原価	52,514	54,739
売上総利益	19,689	15,732
返品調整引当金戻入額	3,869	3,694
返品調整引当金繰入額	3,736	3,193
差引売上総利益	19,822	16,233
販売費及び一般管理費	17,006	17,167
営業利益又は営業損失(△)	2,816	△933
営業外収益		
受取利息	16	14
受取配当金	157	132
負ののれん償却額	40	—
持分法による投資利益	377	297
受取保険金	40	156
物品売却益	91	102
為替差益	—	236
その他	30	20
営業外収益合計	754	961
営業外費用		
支払利息	46	18
株式交付費	1	6
その他	21	2
営業外費用合計	69	27
経常利益	3,501	0
特別利益		
投資有価証券売却益	—	11
関係会社株式売却益	2,826	—
その他	—	0
特別利益合計	2,826	12
特別損失		
固定資産除却損	15	10
減損損失	23	—
投資有価証券売却損	98	—
投資有価証券評価損	380	44
特別退職金	8	—
経営統合関連費用	—	285
その他	—	4
特別損失合計	526	344
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,801	△331
法人税等	1,461	429
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	4,339	△761
少数株主利益	551	74
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,787	△835

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	4,339	△761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,355	△2,837
為替換算調整勘定	1,061	△355
退職給付に係る調整額	—	2
持分法適用会社に対する持分相当額	94	△38
その他の包括利益合計	2,511	△3,229
四半期包括利益	6,851	△3,991
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,195	△4,058
少数株主に係る四半期包括利益	656	67

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,801	△331
減価償却費	964	826
減損損失	23	—
のれん償却額	84	218
退職給付引当金の増減額(△は減少)	139	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	65
受取利息及び受取配当金	△174	△147
支払利息	46	18
関係会社株式売却損益(△は益)	△2,826	4
持分法による投資損益(△は益)	△377	△297
投資有価証券評価損益(△は益)	380	44
売上債権の増減額(△は増加)	7,871	4,548
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,087	△288
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,760	△1,410
その他	△1,406	△2,223
小計	7,678	1,026
利息及び配当金の受取額	234	176
利息の支払額	△53	△17
法人税等の支払額	△151	△307
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,708	877
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	78	△392
有価証券の取得による支出	△302	—
有価証券の売却及び償還による収入	—	693
有形固定資産の取得による支出	△1,738	△2,573
無形固定資産の取得による支出	△605	△1,035
投資有価証券の取得による支出	△284	△125
投資有価証券の売却による収入	1,978	80
保険積立金の解約による収入	208	326
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△2,528
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	3,027	—
その他	△17	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,345	△5,553
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	—	△350
長期借入れによる収入	40	—
長期借入金の返済による支出	△31	—
配当金の支払額	△1,164	△1,755
少数株主への配当金の支払額	△686	—
その他	△12	△21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,855	△2,127
現金及び現金同等物に係る換算差額	468	235
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,667	△6,566
現金及び現金同等物の期首残高	17,876	30,808
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,543	24,242

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。